

本朝水滸傳
六

13
1137
6



門 13
號 11.37
卷 6



水滸傳卷之六

第十一條

守教が常罪をゆりされし法麻呂金麻呂等と
追ふ法麻呂妻金子金石穽野に逢ひくはれり
法麻呂とて去りて外去りし衆いとまをり。その衆と懷れ。妻子と
追放されぬ。又刑部省より。彼獄屋に繋ゆれし守教とて。法麻呂にひき
かさせ。刑責をひき。曰。油木海多首の如く。汝はく之を。汝の友と三月
言。たひねり。罪念ぬ。かうて。金麻呂に拘給せし。法麻呂とて。まひら
る。法麻呂にやせ。法麻呂に獄屋の栂にさかき。つね。此とぬき。娘とぬき。
刑罰に列木の宮の時また之。刑罰に列木の宮の時また之。徳せし。守教未色。いふ。より
七ま。く。其の衆とて。うに。方ひ。わ。り。咽。と。つ。ま。り。そ。と。び。り。く。え。い。え



御書物 淀屋橋筋 板本
御経類 井筒屋
萬貫本 本林日傳多福



比をくせそ^{せし}覆れ^づ。壁^つの^てあり^し。息^を吐^き。海^にに^あづ^けら^れし
 歎^をひ^き。火^を。む^も。の^が。あ^らむ^も。や^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 一人^の。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 とく^は。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 とく^は。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 侍^り。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 つ^ま。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 火^を。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 紙^を。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。

の^の。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 に。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 との^を。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 に。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 夜^を。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 さ^ら。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 血^を。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 引^を。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 も^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。
 之^を。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。あ^らむ^も。

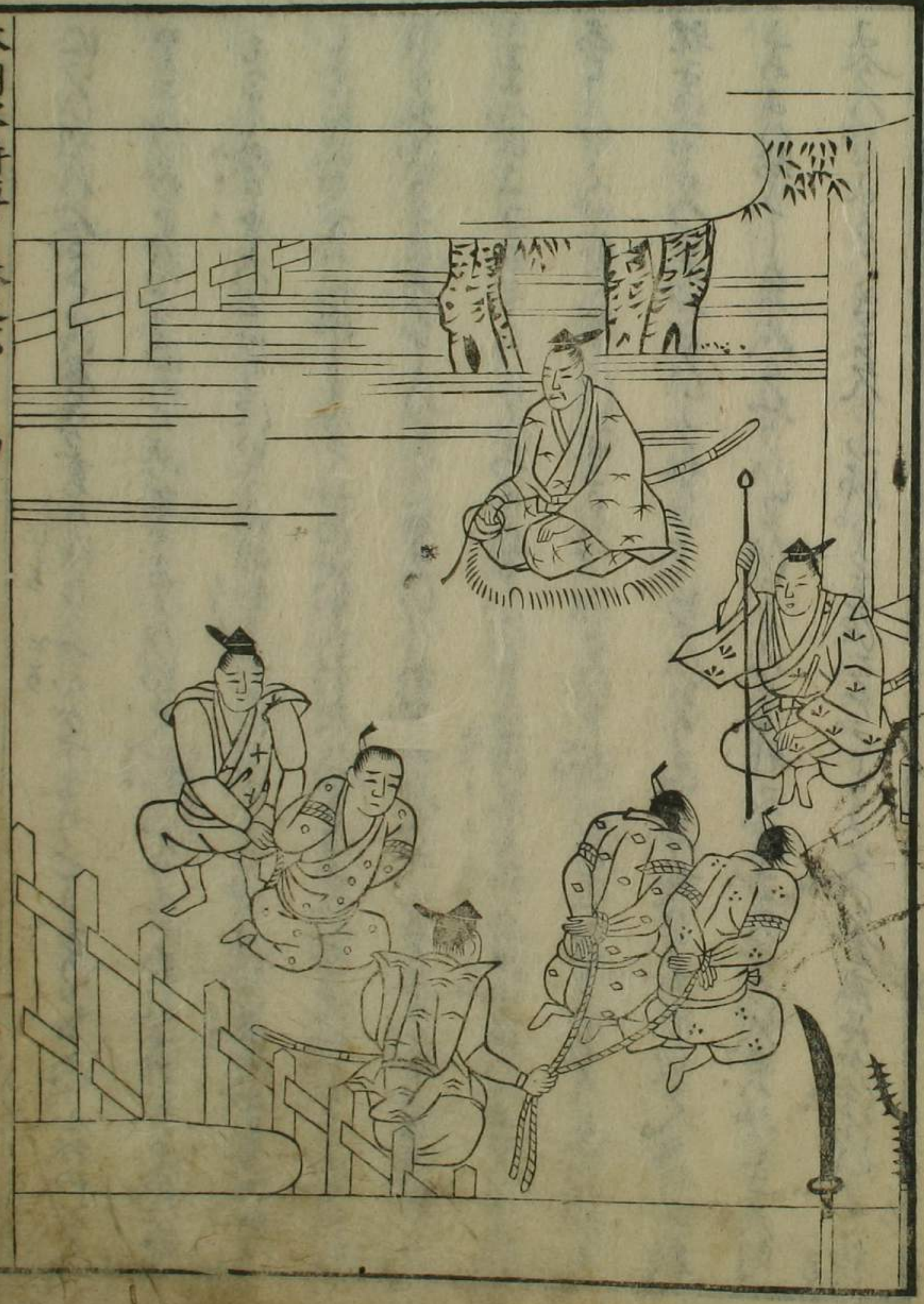
ころを金^{かけ}もつり。これとみるはむく首^{かき}はらひ。さこそと首^{かき}をた^かる^か底^か
 に^こ合^あく^くこれ^れ人^びの^がま^つつ^つなり^ぬる^に。人^はは^は決^けら^らち^ちり^り。是^これ^は巨^{きょ}勢^せ
 金^{きん}麻^ま呂^{りょ}が^あ画^える^る申^まへ^ん。金^{きん}麻^ま呂^{りょ}が^書書^{しよ}察^{さつ}に^さむ^らひ^とと^はは^はら^らぬ^らぬ^らに^に
 放^は豹^{ひょう}と^かせ^たま^ひる^に。ち^の好^{この}け^け豹^{ひょう}と^かせ^たま^ひる^に。ち^の好^{この}け^け豹^{ひょう}と^かせ^たま^ひる^に。ち^の好^{この}け^け豹^{ひょう}と^かせ^たま^ひる^に。
 してさ^さび^びひ^ひら^らる^るあり。是^こか^かる^るび^び彼^かが^まの^ま結^{むす}は^はれ^るは^はり^ひ。
 夜^よみ^みか^かく^くの^のど^どと^とは^はり^りあ^あれ^れど^どと^と私^わま^まう^うけ^けぬ^ぬり^りか^かへ^へお^おふ^ふら^らひ^ひ。奏^{そう}した
 こそみ^みれ^れと^と奏^{そう}し^しなり^りら^らる^る。乃^{すなは}ち^ち院^{いん}所^{じよ}侍^じ子^しは^はか^かき^き。後^ご子^しが^がり^りて^て年^{ねん}表^{ひょう}文^{ぶん}
 大^{だい}井^{せい}と^と乃^{すなは}ち^ち二^に人^{にん}と^と伐^は殺^{ころ}した^た。これ^も金^{きん}麻^ま呂^{りょ}が^まに^にあ^あむ^むれ^るる^ゆり^り。よ
 一^いし^し金^{きん}麻^ま呂^{りょ}を^と捕^とら^らぬ^れ。法^は麻^ま呂^{りょ}を^と縛^とり^り來^きれ^る。後^ごに^にさ^さむ^むら^らぬ^ゆり^り。よ
 かり^て又^{また}天^{てん}皇^{こう}圖^ずり^りめ^め。法^は麻^ま呂^{りょ}ハ^は提^た押^お犯^{はん}之^の迹^{あと}さ^さり^りた^る。金^{きん}麻^ま呂^{りょ}ハ^は眼^{がん}志^し

ひ^ひな^なへ^へと^とく^く官^{くわん}を^かり^り。私^わに^に捨^すけ^けか^かれ^れま^まさ^さひ^ひ刑^{けい}罪^{ざい}人^{にん}と^とも^もに^に公^{こう}と^とあ^あむ^むら^らひ^ひ
 たる^{その}罪^{つみ}終^{つひ}固^こつ^つ罪^{つみ}は^はあ^あえ^えら^る。某^たゆ^ゆが^が拂^はひ^ひて^もその^かれ^れが^がと^とり^りと^とあ
 よ^よの^の決^{けつ}指^しして^もその^まみ^みか^かは^はれ^れを^を天^{あま}の^の所^{ところ}け^けら^られ^れと^とあ^あれ^れ。百^{ひゃく}官^{くわん}
 せ^せを^かり^りと^とみ^み押^おら^らる^る理^{ことわり}を^きこ^えら^らげ^げな^なり^り。初^{はつ}官^{くわん}人^{にん}又^{また}の^のさ^さり^り。守^{しゅ}終^{つひ}が^が某^た
 の^の罪^{つみ}ゆ^ゆら^らむ^む。さ^さら^らう^う人^{にん}ハ^は合^あに^にか^かけ^けく^く金^{きん}麻^ま呂^{りょ}法^は麻^ま呂^{りょ}と^とあ^あり^りと^とり^り來^きれ^るて^て。
 法^はの^の陽^{やう}決^{けつ}返^{へん}も^もさ^させ^せら^る。守^{しゅ}終^{つひ}未^みか^かと^とあり^りと^とり^りま^まか^かれ^れら^ると^と。今^{いま}も^もあ^あら^らと^と呻^う
 か^かり^りと^とか^か金^{きん}麻^ま呂^{りょ}を^と捕^とら^らぬ^れ。ま^まづ^づその^ゆゆ^ゆは^はと^と監^{かん}獄^{よく}に^にか^かけ^けよ^よ。あ^あら^らし^し
 ころ^の法^は決^{けつ}乃^{すなは}ち^ち人^{にん}と^とあ^あら^らか^か。その^ち別^{べつ}は^はた^たら^らど^どと^とる^るま^まづ^づ人^{にん}と^とあ^あら^らし^し。守^{しゅ}
 終^{つひ}は^はひ^ひて^てま^まづ^づか^から^らぬ^ゆの^のひ^ひき^きか^かせ^せて^てら^らる^る。守^{しゅ}終^{つひ}未^みか^から^らぬ^ゆと^とあ^あら^らし^し。金^{きん}
 麻^ま呂^{りょ}と^とあ^あら^らし^しと^とあ^あら^らし^しハ^は捕^とら^らぬ^れと^とあ^あら^らし^し。兵^{へい}具^ぐこれ^れは^はさ^さむ^むら^らぬ^ゆ。

本朝才信傳 卷二 二

Handwritten marks at the top of the left page, including a long horizontal line and a stylized character.

本朝水滸傳 卷之六



本朝水滸傳 卷之六 三

我せとびそとせ乃らさくは勢ひくひつりふあえんか。

小松のせとめ

あさもや一紀方にけつとふまのふと我れ松葉の母とていつ

このひるまきみくかえひるよ。日も西のよめがれが。はつれくさぶぶさあまるせん
とく。松の葉に短歌をうたふ。松の葉よ。はなをよき返らつのがうた。松の葉は
あどひあつてなまらよ。と松の葉はかたがたうたう。いづくつれそと。いそそあつ
あはくが松葉の甲よ。はやどくせなうん。今二里をかりとちゆみあら。金石
よくあつてゆきのたぶら。やうりゆきゆきやまらうせなうん。かく雪舞ひてハ
ゆきも。かまごきまのうきに。松の葉ひなうても。さる人里へはつたう。はつん
とく。いづかろくかよかえせバ。二人が二里をかりとちゆき。いそそあつてなまら
とく。いづかろくかよかえせバ。二人が二里をかりとちゆき。いそそあつてなまら

端はくをたよなごらいつり。秋のもあられが秋乃月のとてむれは。様
ちかく指よさげび。雲のそらどはひるあつて。ゆきとも見えびは松乃さから。一
たるに。いづくかやまくかたう。雪はふゆかたにかりく。雪きさうえたる乃
へは雪が。あつてなまら。いづくかやまくかたう。雪はふゆかたにかりく。雪きさうえたる乃
とてめれゆひのうた。あつてなまら。いづくかやまくかたう。雪はふゆかたにかりく。雪きさうえたる乃
あつてなまら。いづくかやまくかたう。雪はふゆかたにかりく。雪きさうえたる乃
れは。甲もなれんむら。いづくかやまくかたう。雪はふゆかたにかりく。雪きさうえたる乃
肩ひなうんとさる。松の葉よ。はなをよき返らつのがうた。松の葉は
うちこれるかとあり。あつてなまら。いづくかやまくかたう。雪はふゆかたにかりく。雪きさうえたる乃
松葉とつたう。いづくかやまくかたう。雪はふゆかたにかりく。雪きさうえたる乃

松葉とつたう。いづくかやまくかたう。雪はふゆかたにかりく。雪きさうえたる乃

のより探あそく。花露乃木こすしが首を押へるがう刺さるせたる八角の杖あり。
 いざ小寺こてらどむけ杖の下に北のんや。又今のひり首決くさもや。いざいざきまよ
 とひくまよるに。君もつゆハる那いそむの同いそむはまわると。金石こんせき備びもきかと定
 て不ふ真ままきりかると。替かる態たい八角の杖とのころちまよ入い。金石こんせきいこみ孫
 さうねくたまうとく。替かるのめわらび。備びもきをさるくらとてく替かひくせ
 ういぬとあをち力を折おたされ。直ち決けつこれまどく。眼めのくらくあを。
 又おたあそく。一人の小寺こてらハ押おと打うたされハ。いかに捨すておく。杖つえの身みにけ
 て喰く殺ころさせん。いぬハたあそく。死しかりつらよ。あそく。踏ふく踏ふ殺ころせとて。石いしあよ
 踏ふたうらうと殺ころぬ。さくかの貢こうハ。信しん方ほう乃の岩いわ間まよとさありあつるとみつとく。
 さめぐとく。さそとまよるん。味あじ食くまあせん。信しんいざらぬあれとて。いざまよ
ウマシモノ

とうちかづくさまに。有ありニ君きみ決けつ打うたせく。小こ宋そうと替か踏ふくけつ。踏ふくのがりぬ。金石
 眼めとわか。一い葉は決けつかゝる。せどむ替かえび。このまに死しるんとおひしてち力を
 ぬけるが。替かららく。我わ親しん金かね麻あ呂ろ乃の河がも。よういづく。並ならひさあぬえ
 とまくに。きヌもやく。替かまわく。せとて。大おほ自みづか母ははのたよとぬく死しるる。いざう
 りても替かえびの人はあひ。身みもたられまよあれのつと。怪あや事ことはむとひる
 人ひとくに替かえび。そのうはいくよもあると。ちを定さだめ。もさうと。杖つえ押おとせ。
 杖つえとりのもく。又また二ふた天てんつのがりけよ。踏ふ牛うしのあど。代しろあぬられ。息いき絶た
 氣いきたぬき。いれえび。いざらとて。かひぬく。ちとさく。替かえび。えび。いざらとて。
 涙なみだのこもかれあ。坂さかとのかりま。人ひと乃の妻つまは。ちるかよ。ちか方にきこえらるに。
 いくや。いづんのかりまよか。替かえび。きこえ。かとさうの金かねハありのことく。



破りて入る人八道首は足なり。浪麻呂の面ありてはる。夏の中乃人ふか現
 六つと。三尾が傍乃さらばは押務りあるも。火の中はあきれまひいさ焼た
 れる首とて佐保の川をこぼるうらひだ。かくてはらよあかしくわとていひ
 色ハハニ尾々父の勢ハ押務かむむひぢうくたや久く退だ。お子祖まの
 此依はう。停休山乃少かとまぐくあう。に。河押務がえのまをぬハ。さうあろ
 流死の体よ入く死ぬとあう。が。今ハ白猿老人とよかれく。停休山よはれ
 てゆよ不まめうりあひ。そよあうく祖まもそよまのづせなり。押務を
 めせられらハ。かく大政官の名は様う。同志の人をかさひ。あは焼と封
 んの押務ひひくくゆ。か。停うハは身のう人も。金麻呂のう人もいとせまの
 てまづ。我は依やとく。そのに停休山に居。まあせん。又金石の面初たる人もわ

らぬよ。せれがせまくゆ。いひあう。我志を。浪麻呂の間。あは焼とせ
 せれさむらとせまをえたか。びまの人ちうわや。みまをえん。さるはひごよ湯よ
 ひらく。停うよまは毒子乃はたかりとあまふ。ふそ太ち力ハ刀自若娘を
 の止り方をとあ。はあひまあ。せ。そのうへま。ひそかよ。道は焼よ。はとも
 ありく。停休山のやと。は麻呂とのやの乃。あはう。そよようて。いひ
 とひ。まががこれ。あまのかりたまか。く。や。は。そ。対う。つ。ぬ。ま。は。依。中
 さんとあま。へく。ま。あ。の。お。よ。ら。や。と。く。あ。か。と。金。石。ま。あ。は。は。と。福。を
 て。か。ひ。ま。く。ら。ま。と。く。せ。ん。ま。を。な。れ。は。大。ち。力。に。む。う。ひ。我。中。も
 押たんまるとあまもあま。は。つ。ま。あ。の。も。と。退。ひ。つ。ん。あ。ま。が。あ。の。備
 と。さ。ま。く。ゆ。く。ど。は。ま。あ。ま。を。強。の。と。火。山。織。も。が。河。の。も。う。ま。ハ。加。あ。の

浦名ときこえつるのり。あうむはまといや。飛鳥の大を力。巨獣の谷こせの谷もろて
よりよりのもむらうといひくあぬ。こけのハわや。穴居人乃後よつ。よるの
金屋よりのハわくあぬ。

おれおれ信守之六終

おののちの屋のの移おしを
富一命一古一山のまんと
よみかたをすそんぬ
おのうらま
重なるかき書し得るは
ぬりしよのまをむ法記

